

.

月は太陽光を反射して「光って見える」ので、恒星や多くの太陽系天体とはちがって、夜だけでなく昼や夕方にも見えることがあります。夕方の西の空に見える月の代表が「三日月」です。三日月は「新月（朔）の二日後の月」のことで、月齢は3ではなく2（正確には 2.25 前後）です。非常に細い月で、太陽を追いかけるようにすぐに沈んでしまうので、東京では「真の三日月」を観望できるチャンスはほとんどありません。「あ、三日月だ!」と言って指さされている月は、大抵は「五日月」か「六日月」が多く、「三日月」ではなく「三日月形の月」と呼ぶのが正しいです。

三日月とは逆に、早朝の東の空に見える月もあります。三日月とは「向き」も「太陽との位置関係」も「見え方」もすべて逆です。「二十七日月」が正しい名称ですが「逆三日月」と呼ばれることもあり、これは正しい表現だと思います。「本家の三日月」とはちがって、太陽に追いかけられるように東の空に昇ってきて、日の出後に見えなくなってしまうことが多いです。英語では三日月を「New Crescent」、二十七日月を「Old Crescent」と書くこともあります。なかなか良い表現だと思います。

先日、小石川の自宅前で「Old Crescent」を見ました。その後、太陽が昇ってもしばらく見えていましたが、やがて青空の中に溶け込んでしまいました。

(2025 年 4 月下旬／文京区小石川)

